

1 医療機器の効率的な活用に関する考え方

人口当たりの医療機器の台数には地域差があり、また、医療機器ごとに地域差の状況は異なっています。今後、人口減少が見込まれ、効率的な医療提供体制を構築する必要がある中、医療機器についても効率的に活用できるよう対応を行う必要があります。

したがって、医療機器の効率的な活用に資する施策として、地域の医療ニーズを踏まえた地域ごとの医療機器の配置状況を可視化する指標を作成し、新規購入希望者に対してこれらの情報を提供しつつ、外来医療に関する協議の場等を活用し、医療機器の共同利用（対象となる医療機器について連携先の病院又は診療所から紹介された患者のために利用される場合を含む。）等について協議することとします。

2 医療機器に関する現況等

(1) 医療機器の配置状況

本県における病院及び一般診療所における医療機器^{*}の配置状況は以下のとおりです。

※本計画で言う「医療機器」とは、国のガイドラインで示されたCT（全てのマルチスライスCT及びマルチスライスCT以外のCT）、MRI（1.5テスラ未満、1.5テスラ以上3.0テスラ未満及び3.0テスラ以上のMRI）、PET（PET及びPET-CT）、放射線治療（リニアック及びガンマナイフ）及びマンモグラフィの5つの医療機器のことを指すものとします。

ア CT

岐阜県における、病院の医療機器稼働率（以下「稼働率」という。）は、全国値を上回っています。

二次医療圏別に見ると、病院の稼働率は東濃圏域が県内5圏域で最も多く、飛騨圏域が県内5圏域で最も少なくなっています。診療所稼働率は東濃圏域が県内5圏域で最も多く、中濃圏域が県内5圏域で最も少なくなっています。

■医療機器台数及び稼働状況（CT）

	台数		医療機器稼働率 (機器1台当たり件数)	
	病院	診療所	病院	診療所
全 国	8,500	6,095	2,188	*
岐阜県	110	146	3,024	443
岐 阜	48	68	3,100	399
西 濃	16	26	3,072	579
中 濃	20	27	2,958	281
東 濃	17	20	3,102	601
飛 騨	9	5	2,530	571

【出典：医療機器の台数は、厚生労働省提供 医療施設調査(2020年)】

※医療機器の稼働率は、厚生労働省提供「NDB (H31.4～R2.3) 診療分データ抽出・集計」

「*」は秘匿マーク。算定回数の特定を防ぐため全国値を秘匿。

イ MRI

岐阜県における病院の稼働率は全国値を上回っています。

二次医療圏別に見ると、病院の稼働率は西濃圏域が県内5圏域で最も多く、飛騨圏域が県内5圏域で最も少なくなっています。診療所の稼働率は飛騨圏域が県内5圏域で最も多く、中濃圏域が県内5圏域で最も少なくなっています。

■医療機器台数及び稼働状況 (MRI)

	台数		医療機器稼働率 (機器1台当たり件数)	
	病院	診療所	病院	診療所
全 国	4,872	2,368	1,814	*
岐阜県	74	40	1,829	1,456
岐 阜	35	21	1,783	1,560
西 濃	9	5	2,127	1,710
中 濃	14	5	1,742	988
東 濃	11	8	2,004	1,046
飛 騨	5	1	1,474	3,608

【出典：医療機器の台数は、厚生労働省提供 医療施設調査(2020年)】

※医療機器の稼働率は、厚生労働省提供「NDB (H31.4～R2.3) 診療分データ抽出・集計」

「*」は秘匿マーク。算定回数の特定を防ぐため全国値を秘匿。

ウ PET

岐阜県における稼働率について二次医療圏別に見ると、病院の稼働率は西濃圏域が県内5圏域で最も多く、飛騨圏域が県内5圏域で最も少なくなっています。

診療所ではPETを設置していません。

■医療機器台数及び稼働状況 (PET)

	台数		医療機器稼働率 (機器1台当たり件数)	
	病院	診療所	病院	診療所
全 国	480	114	*	*
岐阜県	14	0	753	-
岐 阜	6	0	857	-
西 濃	1	0	1,417	-
中 濃	4	0	562	-
東 濃	1	0	1,194	-
飛 騨	2	0	272	-

【出典：医療機器の台数は、厚生労働省提供 医療施設調査(2020年)】

※医療機器の稼働率は、厚生労働省提供「NDB (H31.4～R2.3) 診療分データ抽出・集計」

「*」は秘匿マーク。算定回数の特定を防ぐため全国値を秘匿。

エ 放射線治療（体外照射※）

岐阜県における病院の稼働率は全国値を上回っています。

二次医療圏別に見ると、病院の稼働率は西濃圏域が県内5圏域で最も多く、東濃圏域が県内5圏域で最も少なくなっています。

※本計画で言う体外照射とは、人体に対して外部から放射線を照射する治療法のこと

■医療機器台数及び稼働状況（放射線治療）

	台数		医療機器稼働率 (機器1台当たり件数)	
	病院	診療所	病院	診療所
全 国	1,033	11	2,718	6,925
岐阜県	18	0	2,820	-
岐 阜	9	0	2,686	-
西 濃	2	0	4,243	-
中 濃	3	0	2,562	-
東 濃	3	0	2,432	-
飛 騨	1	0	3,112	-

【出典：医療機器の台数は、厚生労働省提供 医療施設調査(2020年)】

※医療機器の稼働率は、厚生労働省提供「NDB (H31.4～R2.3) 診療分データ抽出・集計」

オ マンモグラフィ

岐阜県における稼働率について二次医療圏別に見ると、病院の稼働率は岐阜圏域が県内5圏域で最も多く、中濃圏域が県内5圏域で最も少なくなっています。診療所の稼働率は西濃圏域が県内5圏域で最も多く、東濃圏域及び飛騨圏域での稼働はありません。

■医療機器台数及び稼働状況（マンモグラフィ）

	台数		医療機器稼働率 (機器1台当たり件数)	
	病院	診療所	病院	診療所
全 国	2,621	1,640	*	*
岐阜県	52	23	534	178
岐 阜	18	8	762	180
西 濃	10	3	506	589
中 濃	13	7	249	128
東 濃	6	3	580	0
飛 騨	5	2	450	0

【出典：医療機器の台数は、厚生労働省提供 医療施設調査(2020年)】

※医療機器の稼働率は、厚生労働省提供「NDB (H31.4～R2.3) 診療分データ抽出・集計」

「*」は秘匿マーク。算定回数の特定を防ぐため全国値を秘匿。

(2) 医療機器の調整人口当たり台数

地域の医療機器のニーズを踏まえて地域ごとの医療機器の配置状況を医療機器の項目ごとに可視化する指標を作成することとします。

その際、医療機器のニーズは、医療機器の項目ごと、性・年齢別ごとに大きな差があることから、医療機器の項目ごと及び地域ごとに性・年齢構成を調整した人口当たり機器数を用いて指標を作成します。

なお、当該指標は、厚生労働省において算出し、県に対して情報提供されたものです。

(参考) 医療機器の効率的活用における性・年齢階級別検査率を用いた各地域の医療機器の配置状況に関する指標の計算方法

$$\text{調整人口当たり台数} = \frac{\text{地域の医療機器の台数}}{\frac{\text{地域の人口}}{10 \text{ 万}} \times \text{地域の標準化検査率比 (※1)}}$$

$$(※1) \text{ 地域の標準化検査率比} = \frac{\text{地域の性年齢調整人口当たり期待検査数 (外来 (※2))}}{\text{全国の人口当たり期待検査数 (外来)}}$$

(※2) 地域の人口当たり期待検査数

$$= \frac{\sum \left\{ \frac{\text{全国の性年齢階級別検査数 (外来)}}{\text{全国の性年齢階級別人口}} \times \text{地域の性年齢階級別人口} \right\}}{\text{地域の人口}}$$

■調整人口当たり台数

	CT	MRI	PET	放射線治療 (体外照射)	マンモ グラフィ
全 国	11.5	5.7	0.5	0.8	3.4
岐阜県	12.2	5.5	0.67	0.85	3.8
岐 阜	14.5	7.0	0.75	1.13	3.2
西 濃	11.1	3.7	0.26	0.52	3.6
中 濃	12.1	4.9	1.02	0.76	5.5
東 濃	10.3	5.4	0.28	0.83	2.8
飛 騨	8.4	3.7	1.23	0.60	4.9

【出典：厚生労働省提供「NDB (H31.4～R2.3) 診療分データ抽出・集計】

※医療機器の台数は、厚生労働省提供 医療施設調査(2020年)

人口は、住民基本台帳人口(2020年) 2021年1月1日現在の人口(外国人含む)

ア CT

岐阜県における調整人口当たり台数(以下「台数」という。)は全国値を上回っています。

二次医療圏別に見ると、岐阜圏域及び中濃圏域が全国値を上回っており、岐阜圏域が県内5圏域で最も多くなっています。西濃圏域、東濃圏域及び飛騨圏域は全国値を下回っており、飛騨圏域が県内5圏域で最も少なくなっています。

イ MRI

岐阜県における台数は全国値を下回っています。

二次医療圏別に見ると、岐阜圏域が全国値を上回っており、県内5圏域で最も多くなっています。西濃圏域、中濃圏域、東濃圏域及び飛騨圏域は全国値を下回っており、西濃圏域及び飛騨圏域が県内5圏域で最も少なくなっています。

ウ PET

岐阜県における台数は全国値を上回っています。

二次医療圏別に見ると、岐阜圏域、中濃圏域及び飛騨圏域が全国値を上回っており、飛騨圏域が県内5圏域で最も多くなっています。西濃圏域及び東濃圏域は全国値を下回っており、西濃圏域が県内5圏域で最も少なくなっています。

エ 放射線治療（体外照射）

岐阜県における台数は全国値を上回っています。

二次医療圏別に見ると、岐阜圏域及び東濃圏域が全国値を上回っており、岐阜圏域が県内5圏域で最も多くなっています。西濃圏域、中濃圏域及び飛騨圏域は全国値を下回っており、西濃圏域が県内5圏域で最も少なくなっています。

オ マンモグラフィ

岐阜県における台数は全国値を上回っています。

二次医療圏別に見ると、西濃圏域、中濃圏域及び飛騨圏域が全国値を上回っており、中濃圏域が県内5圏域で最も多くなっています。岐阜圏域及び東濃圏域は全国値を下回っており、東濃圏域が県内5圏域で最も少なくなっています。

3 医療機器の効率的活用に係る計画

(1) 医療機器の共同利用の方針

今後、人口減少が見込まれる中、医療機器を効率的に活用していく必要があるため、医療機器の共同利用の体制を整備し、地域の医療機関相互の密接な連携と機能分担の促進、医療資源の効率的活用を図り、地域の医療水準の向上に資するものとします。

また、医療機関が医療機器を設置・更新（リース契約による設置を含む。）する場合は、共同利用計画を作成し、岐阜県圏域地域医療構想等調整会議で確認することとします。

※5つの医療機器全てを対象とします。

(2) 共同利用計画の記載事項とチェックのためのプロセス

共同利用計画には次に掲げる事項について、別途定める様式への記載を求めます。

- ①共同利用の相手方となる医療機関
- ②共同利用の対象とする医療機器
- ③保守、整備等の実施に関する方針
- ④画像撮影等の検査機器については画像情報及び画像診断情報の提供に関する方針

なお、共同利用を行わない場合については、共同利用を行わない理由について、岐阜県圏域地域医療構想等調整会議で確認することとします。

共同利用計画は医療機関の所在地を管轄する保健所へ提出し、共同利用計画及び共同利用に関する規程、保守点検計画及び医療法に基づく医療機器の設置届等により、医療機器の安全管理に係る体制並びに診療用放射線の安全管理に係る体制について確認するものとします。

また、策定された共同利用計画については、岐阜県圏域地域医療構想等調整会議での議論の状況等と合わせ、岐阜県医療審議会へ報告を行います。

(3) 医療機器の効率的な活用を進めるための取組み

県は、医療機器の配置・稼働状況に加え、共同利用計画から入手可能な、医療機器の共同利用の有無や画像診断情報の提供の有無等の方針についても可視化を進め、医療機関がその地域において活用可能な医療機器について把握できるよう、周知をすすめます。

さらに、地域の医療資源を可視化する観点から、医療機器を設置・更新（リース契約による設置を含む。）した医療機関に対して、医療機器の稼働状況について、外来機能報告又は別途定める様式での報告を求めます。

また、岐阜県圏域地域医療構想等調整会議における協議の状況について結果をとりまとめ、公表します。